

## 1 会議・委員会の省エネ化

### (1) 現状と課題

○法定必置のほか、日々発生する課題の検討のため会議が徐々に増加

※都立病院全体で年間	設置数	開催時間	延べ参加人数	人件費
	463個	3,918時間	61,012人	約3億円

- 【長所】意思決定の即時性、多職種コミュニケーションの円滑化
- 【短所】拘束時間が長い、議論が発展しない、紙コスト増、準備の業務大

◇ 病院運営上必要だが、質や効率化を高めることが重要

### (2) 解決策

☆キャッチコピー「会議 is money」

○省エネ化を評価・継続するため、定量的及び定性的な視点で「見える化」

#### I) 定量的視点

① 統廃合・開催形態の見直し	審議内容・メンバーの重複を検証、資料回覧・メール開催
② 構成員の見直し	必要最低限の構成としその他は任意参加、代理出席の推進
③ 開催回数の縮減	定例会の頻度見直し、都度開催に移行

I) 延べ時間（回数×人数×時間）を統一指標とし、削減値を可視化

#### II) 定性的視点

① 会議の質の向上（進行管理・活性化）	事前の資料配布と議事把握、審議目的の明確化、開始時間の配慮と終了時間の設定、スタンディングミーティング
② 会議外での情報共有の促進	議事録の抄録化、電カル等での周知、資料のIT化と共有化
③ 資料作成の効率化・資料の電子化	資料様式の統一、資料削減、開催通知や議事録の紙配布を削減

II) 統一チェックシートで取組内容を可視化し、結果を評価

## 2 障害を持つ患者の対応の充実

### (1) 現状と課題

○バリアフリー法や意識啓発研修等により既に取組は進んでいるが、障害者差別解消法の施行により、特にソフト面でのきめ細かな対応が必要

※取組済みのもの 筆談ボード、点字ブロック、誰でもトイレ・手すり・スロープ等

- 職員の声や患者の要望等から、今後対応を要するものも多い
- 【聴覚（窓口呼出し・予約受付多様化）、視覚（弱視、色弱・色盲者対応）】

◇ 必要度が多い「聴覚」・「視覚」障害者への対応を充実

### (2) 解決策

○聴覚障害者及び視覚障害者が、一人で安心して受診できる環境を整備

#### I) 聴覚障害者

① 予約方法の多様化	FAX・メールでの診療予約・予約変更対応
② 配慮情報の共有	電子カルテ上で障害の内容や配慮情報を共有化、記載ルールの策定
③ コミュニケーションツールの活用・充実	筆談ボード設置、耳マークの掲出、患者呼出し装置の活用

I) 機器等の整備・マニュアルの作成により、全病院統一した対応を展開

#### II) 視覚障害者

① スタッフの院内誘導	配慮事項の確認・共有、研修受講、声掛けなどの取組推進
② サイン表示の充実	視認しやすい色・字体の使用、簡易院内サインの追加
③ 説明手段の拡充	音声コードの提供、署名ガイド・点字テプラの活用
④ 補助犬受入の発信	補助犬受け入れ体制のルール策定、ホームページや院内掲示で周知

II) 研修の実施・取組内容の報告等により、各病院の取組を継続化